湖南省第三次地域福祉計画 第4回策定委員会 会議録

- 日時 平成28年(2016年)11月30日(水曜日) 午後2時30分から午後4時40分まで
- 場所 湖南省中央まちづくりセンター 2階 第3会議室
- 出席者 委員(15名)、事務局(6名)、NITOKEN(2名)
- 会議次第

- 1 あいさつ
- 2 議事
 - (1) 住民・事業所懇談会の結果について(資料1~3)
 - (2) 第二次計画の「7地域福祉の基本目標と取り組み」の見直し案(資料4)
 - (3) 第三次計画における「誇れるものと大事にしたいもの」の方向性(案)(資料5)
- 4 その他

1. あいさつ

事務局	<p>皆さんこんにちは。提示となりましたので、只今より第4回湖南省第三次地域福祉計画策定委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに、健康福祉部長よりあいさつをさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">－ あいさつ －</p> <p>今回の委員会資料につきましては配布が遅くなり、大変ご迷惑おかけいたしました。また、先日開催されました住民懇談会には委員の皆さんにもたくさんご参加いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の流れについて先に説明をさせていただきます。まず住民懇談会の結果について資料1でご説明し、そのまとめとして、先に資料5の第三次計画における「誇れるものと大事にしたいもの」の方向性についてご報告いたします。その後、資料2、3で事業所懇談会の結果についてご報告し、最後に資料4で基本目標の取り組みの見直し案についてご説明させていただきます。</p> <p>それでは進行をお願いいたします。</p>
-----	---

2. 議事

- (1) 住民・事業所懇談会の結果について
- (3) 第三次計画における「誇れるものと大事にしたいもの」の方向性(案)

委員長	<p>それでは説明のありました通り、先に資料1と資料5を使い、住民懇談会結果とそのまとめについてご報告をしていただきます。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">－ 住民懇談会の結果について説明(資料1) －</p> <p style="text-align: center;">－ 第三次計画における「誇れるものと大事にしたいもの」の方向性(案)について説明(資料5) －</p>
委員長	<p>それでは2会場で行われた住民懇談会の結果の報告と、テキストマイニングを使ったまとめについて、ご意見をお願いいたします。</p>
委員	<p>資料5の6ページに「キーとなる人を大切に」とありますが、具体的にはどういった人を指しているのですか。</p>
事務局	<p>懇談会でもご意見が出ていたのですが、具体的にはコーディネーター、つなぎ役となる人や、民生委員さんなどが挙げられていました。そういった方をこれからも</p>

	大事にしていく、つまり確保・育成していくという主旨です。
委員	それは行政の方ということですか。
事務局	行政に限らず、地域の中で活躍しておられる方も含まれています。
委員	懇談会は2会場で34名と26名が参加されたということですが、委員会のメンバーからはどれくらいの方が参加されたのでしょうか。また、区長会、民生児童委員、まち協その他どういった団体の方で構成された懇談会の結果がこのようなまとめにつながったのか、妥当なメンバーの出席だったのかということが気になります。
事務局	手元に詳細な資料がございませんが、民生委員、区長、まち協など、年齢の高い層の方の参加が多かったという印象です。地域福祉に関わりを持っていただいている団体の方が多かったように思います。
委員長	参加者も少ないといえ少ないので、参加された層もいくらか偏っている部分があるかと思いますが、私の感想としてはそのなかで最大限色々な意見が出たように考えております。 まとめの方向性についてのご意見はいかがでしょうか。今回も意見シートがございますので、お気づきになられた点がございましたら、後程ご記入いただき提出していただければと思います。 続きまして、事業所懇談会の結果について事務局より説明をお願いします。
事務局	－ 事業所懇談会の結果について（資料2、3） －
委員長	事業所懇談会について報告していただきましたが、ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。
委員	事業所懇談会に参加させていただきましたが、一市民として事業所さんとお話をさせていただく機会もありませんでしたので、良い経験になりました。それぞれの分野の事業所が互いの分野を知っていただいて、一緒になって計画に反映していけたらいいなとしみじみと感じました。
委員	私は参加できず、申し訳ありません。資料を読ませていただくと、高齢関係の方が多く参加されていたようですが、障がいの方では今年未曾有の大きな事件がございましたし、今こそ住民の方としっかりお話しすべき機会だったと反省しております。
委員	私はまち協をしております、事業所と関わりを持っていきたいと考えているのですが、事業所からまち協には具体的にどういった意見がありましたか。
事務局	地域に根ざした事業所を目指しておられる方に多く参加していただきましたが、地元の自治会には参加しているが、もう少し大きな範囲での参加がない、もしくは地域との関わりがないという事業所さんもございました。そんななかで、まち協のような区、自治会に比べると大きな範囲で、役員として加わるのは難しくても、夏祭りに一つのブースとして参加するなどでもできれば、事業所としても地域に知ってもらえるし、地域に溶け込んだ事業所への一端となるのではというご意見がありました。そういった関わりであれば、小さな事業所でもできることはあるのではないかとということで、声を掛けていきたいし、掛けていただきたいという話がありました。

委員	<p>私はBグループに参加していましたが、事業所として地域のふれあいサロンに行って交流をしたいという意見もありました。今までは行政から講座を取るなどして年間の行事を埋めていましたが、新しい場が生まれるので良いと思います。イベントの時には地域の事業所にも声かけはして、出ていただくこともありますが、運営委員会等事前の場には出ていただいていないので、そういう場にも入っていただけたら助かるなと感じました。</p>
委員	<p>私はAグループに参加しました。社協にはまち協担当がいますが、施設もまち協と関わりたけれど互いに関わり方が分からなという状況があります。ある施設から「もっと子どもたちに施設に来てほしい」という相談を受けたのですが、例えば自治会やまち協に働きかけて、夏休みの子どもの居場所になるということも考えられるかと思います。また、百歳体操が終わった後に認知症カフェをコラボさせて出向くなどすればきっかけづくりになるのではないかという話もありました。石部南では、まち協の委員に施設の方が入って、個人として、施設としても意見を出していらっしやいます。皆さんの色々な動きとまち協がコラボできるようにつなぐのが社協の役目だと考えながら、懇談会に参加させていただきました。</p>
委員長	<p>これまでは事業所間でも分野が違えば十分に知り合えていませんでした。大きな事業所ではなかなか地域と交流ができていなかったということもありますが、一緒にやっていくというスタンスが大事になってくると感じました。</p>
(2) 第二次計画の「7 地域福祉の基本目標と取り組み」の見直し案	
委員長	<p>それでは(2) 第二次計画の「7 地域福祉の基本目標と取り組み」の見直し案について説明をお願いします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">— 第二次計画の「7 地域福祉の基本目標と取り組み」 の見直し案について説明（資料4） —</p> <p>現在策定委員の皆さんから8項目について、今後の方向性で「継続・検討」というご意見をいただいています。本日はその8項目についてご意見をいただきたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">— 「身近な民間施設などを利用した情報提供」について説明 —</p>
委員長	<p>いかがでしょうか。第二次計画では、例えばコンビニなどに情報誌やイベントのチラシを置く、といったイメージで項目を立てましたが、実際にはコンビニなどではかなりシビアにスペースを利用しているので難しいということがわかりました。内容について修正をしたうえで、継続するのか、しないのかも含め、ご質問、ご意見があればお願いいたします。</p> <p>例えば、石部の平和堂の2階には子育てのスペースがありまして、情報誌などを置いています。まったく手に取られていないわけではないですが、市全体の有効性から言えばどうかなという感触です。そういう事例を皆さんお持ちかと思いますが。</p>
委員	<p>11月3日にボランティアまつりをしまして、そのチラシを各幼稚園、保育園、まち協にも届けさせていただきました。おかげさまで、今回のボランティアまつりには子どもや子ども連れの若いお母さんに例年よりたくさん来てもらえました。ここでいう民間施設に当たるかわかりませんが、公立だけでなく私立にも届けさせてい</p>

	<p>ただきましたので、それも情報提供の一つになるのかなと思っております。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この場で継続かどうか決定することはできないかと思っておりますので、ご意見があれば意見シートにて提出していただければと思います。</p>
事務局	<p>参考までに、湖南省では毎年手話講座を約20人の定員でしておりますが、今年はそのポスターを色々なところに貼らせていただいたところ、40人近くの方に参加していただきました。PRすることで効果を挙げた例として紹介させていただきます。</p> <p>では次の項目について説明させていただきます。</p> <p>－ 「コミュニティバス車内広告などを利用した情報提供」について説明 －</p>
委員長	<p>こちらの項目に関連してご意見いかがでしょうか。</p> <p>こちらにつきましても何かあれば後程ご意見シートをご提出いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>－ 「まちづくりセンターなど身近なところでの総合的な相談」について説明 －</p>
委員長	<p>先程事業所懇談会のお話もありましたが、例えば認知症について月に1回、短時間でも、地域の事業所が相談コーナーを設けるといったことも可能性としてはあるのではないかと思います。</p>
委員	<p>相談の中身が問題ですね。個人情報のこともありますし、一般の方には専門的な相談は難しいと思います。中学校圏域やまち協で月1回するのであれば、地域の事業所から専門職の人間が協力はさせていただけると思います。弁護士や司法書士、行政書士等が必要な場合は、社協にまち協の担当がいるということですので、その方に仲介に入らせていただくと依頼もしやすくなります。成年後見センターパンジーでは「なんでも相談会」を継続して実施していますが、相談員だけで50人くらい、保健士や行政書士など分野にまたがって来てもらっているのが家族のなかで色々なケースがある場合にも一定の満足はいただけていると思います。</p>
委員	<p>社協でも、年1回地域に出向いて相談事を受けてはどうかという話が出ていたのですが、結局体制ができず見送りになりました。以前岩根のまち協に関わったときには、地域の色々な人が活躍できるボランティアセンターのようなものを作って、相談も併せて受けてはどうかという話が出ていました。まち協、事業所、行政も入りながらそういったことができればと思います。</p>
委員	<p>センターの指定管理を受けて2年になろうとしています。7つの学区でセンター長1名、事務員1名、そして市の職員という体制で対応しています。相談があったときは行政とオンラインでつながっていますから、わからない場合は専門の部署につながりなど対応をしやすい部分はあったかと思っております。ただセンター長は行政に通じておられる方もいますが、どこへ話を持っていったらいいかわからない方もおり、ばらつきがあるように感じます。どういう対応をすれば先へ進むことができるのか、センター長や職員は悩むところだと思います。現在センターの管理運営についてのヒアリングを行い、そのとりまとめをしているところですので、どういった相談があったのかについてのデータは把握していると思います。</p>
委員長	<p>色々な意見が出ましたが、他に高齢者支援センターというのもございますので、</p>

	<p>そういったところも含めて、次長にコメントをいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>こちらとしましても、まち協に事業所も含めた形で福祉部会を組織していただいたり、また事業所と地域がイベント時だけでなく日ごろから話し合いを進めていったりするなかで、地域づくりが進んでいくと考えております。</p> <p>今議題となっている総合相談の窓口という意味では、先ほどご紹介のあったように、パンジーで「なんでも相談会」をしております、たくさんの専門職の方に来ていただき、相談しに来られる方には満足していただいています。そういった規模のものまでできなくても、「なんでも巡回相談日」のようなものをまち協と事業所で協力していただいで実施するというのも可能かと思いました。ぜひ相談させていただきたいと考えながら聞かせていただきました。</p>
委員長	<p>例えばモデル的にどこかで実施するのもよいかと思えます。</p> <p>では次の項目の説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> － 「専門的な相談窓口での情報提供」について説明 － 「横のつながりによる情報提供」について説明
委員	<p>アウトリーチ型とはどういう意味でしょうか。</p>
事務局	<p>訪問型という意味でして、窓口で相談に来られない方について、訪問して支援をしていくという意味になります。</p>
委員長	<p>前回もご報告したかもしれませんが、高齢のご両親が介護保険サービスを利用して始めて、実は長い間家から出られなかった知的障がいの方がいたことがわかったという事例もございました。偶然ではありますが、やはり訪問するというのも大事だと思います。現実には実施するのは難しいですが、目標としては大切です。</p> <p>わかりやすい計画に、という意見もございましたので「アウトリーチ型（訪問型）」というような表記にしてはどうでしょうか。</p> <p>他にご意見等よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>伴走型といって、ともに寄り添いながら、ともに考えながら、理解を深めていくという方法も最近言われていますので、その点についても考慮いただければと思います。</p> <p>今のお話のように、ひとつの家庭で、高齢や障がいなど複層化している事例があった場合に、湖南市としてはどこがイニシアチブをとって進めていくというお考えですか。</p>
事務局	<p>いわゆる地域包括の全体化の話かと思いますが、そこまでの体制が整っていませんので、難しいところがございます。市長としてはそのような方向性を話していますが、現在高齢と健康が保健センターにあります、社会福祉、子育て、その他は本庁東庁舎にあります。そのせいでやりとりがややこしくなっている部分もありますので、新庁舎ではひとつの窓口にするという計画も挙がっております。</p>
委員長	<p>包括が進められているのは、近江八幡市と米原市くらいですかね。ぜひそういった方向性で進めてもらいたいと思います。</p> <p>では次の項目についてお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> － 「福祉事業所などへの地域住民のちょっとした手伝い」について説明

委員長	<p>住民懇談会でも、道に花を置いておられて癒されているという発表もありました。そういう事例は山ほどあると思いますが、福祉事業所に対してだけでなく、住民同士の助け合いという意味でもけっこうですので、何かご意見ございますでしょうか。</p>
委員	<p>私は精神障がい者対象の事業所をしておりまして、施設を作るときはちょうど池田小学校の事件があったときでもあり、非常に懸念する声がありました。それから、社協のボランティアセンターに頼んで、昼食ボランティアをお願いし、最近では男の料理教室もしています。どういう施設なのかご存じなかった方で、それをきっかけに関心を持ってもらい、そのまま給食のパートになっていただいたり、グループホームのキーパーになっていただいたり、そういう風につながりができたことは非常にありがたく感じています。2か月に一回とか、負担のない範囲でお願いしていることで続いているのだと思います。</p> <p>また、ちょっとした声かけ、手伝いという項目に関連して、引きこもりについてですが、私の事業所でも湖南省市、甲賀市にお世話になって、県の社会福祉協議会の縁創造実践センターと一緒に、引きこもり支援のモデル事業を民生委員はじめ色々な方の協力のもと始めています。引きこもりの方のなかには、一度も病院に行ったことがない方や、中学卒業以来家を出ていない方もいらっしゃいます。そういった方は知的障がい者という診断を受けたこともなく、家族としては近所に知られたくなかったり、誰かがそこに立ち入ること昔の荒れていた状態に戻るのではないかという恐れもあったり、いわば引きこもりということが社会的に十分に理解されていないという状況がありますので、今時間をかけて訪問しながら関係づくりをしているところです。そういった取り組みに市の保健センター、民生委員協議会、保健所などさまざまな部分が連携し対応させていただいております。障がい、高齢、子どもなどに当てはまらない、何の根拠法も持たない方というのがそこにはいらっしゃいますので、そういう意味で漏れないシステムといいますか、そういった取り組みもしているということをご紹介させていただきます。</p>
委員長	<p>人によっては、よほどの関係性を持たないと、声かけなどもかえってマイナスになるリスクもあるということですね。</p>
委員	<p>そうですね。以前、訪問した際に追い返されてしまい、以来メモを渡し続けていた方がいたんですが、実は本人はそのメモをずっと持っていらっしやったそうです。誰かが来ることが刺激ではあるけれども、一方でどこか待っていたところもあって、ただ自分で出ていくタイミングではなかったということですので、先ほど話に出た伴走型などさまざまな手法を使いながらやっていかなければならないのですが、制度としての支援はないのが現状です。引きこもりの方には、そもそも本人と会って契約することができないので、福祉サービスは成り立ちません。それが地域福祉のどの部分に適応するのかわかりませんが。</p>
委員	<p>44、45 ページの取り組みの主体としてまち協について書かれていますが、やはり簡単なことではありませんので、「まち協は何もしてくれない」となってしまうと辛いところです。私の住んでいる団地にも何人も引きこもりの方がいらっしやいまして、ご両親が元気なうちはいいですが、ご両親が80歳、90歳の家については、隣近</p>

	<p>所でこれからどうしようかと話しています。目の前にある悩ましい問題のひとつだと思います。まち協が表に出てどういった絵が描けるのだろうかと悩んでいるところでもあります。</p>
委員	<p>まち協としても色々な取り組みを考えたり、実行したりしているんですが、人の関わりというのは非常に難しい部分です。3年ほど前から、チケットを出して買い物への援助や病院の送迎をする取り組みを活動の方針に掲げて取り組んできました。甲賀市の甲南町でそういった取り組みを進めておられるところがあるので見学に行ったのですが、やはり対象者を集めるところに難しさがあるということです。十把一絡げにやるわけにもいかないし、個人情報の問題もあるので、まち協でそういった取り組みをするのは非常に難しいなと思いました。私どもでも子ども食堂をしていますが、対象を本当に来てほしい子どもに絞るのは非常に難しいです。まち協としてどのように対象者を把握していくのかについてはまた社協さんにも相談させていただきたいと思いますが、まち協には個人情報の問題など大きな壁があるように思います。</p>
委員長	<p>他にご意見がなければ次に進めたいと思います。</p>
事務局	<p>－ 「区・自治会等の新しいあり方の検討」について説明 －</p>
委員長	<p>これはどこも共通の課題ですが、自治会を脱会する人が増え、新規の入会が減っています。第二次計画をつくった当時、その問題をどうしようかということでこの項目が設定されました。ただ、新しく団地が建って、そこに住む若い人がたくさん入会したという事例もありますし、現在はまち協がございますので、自治会との役割分担についても整理をする必要があると思います。</p>
委員	<p>緑ヶ丘で区長をしています。自治会に入っておられない方は少ないです。入っていない方については、初めの話の持っていき方がまずくて怒らせてしまったということがありました。それ以外に言葉の通じない外国人の方も加入されていません。加入率の低いのを気にされて、区費をいくらか免除するというのを提案してきた組長さんもいましたので他の区長に聞いたところ、区費を軽減しているところはありましたが、組費を軽減している区はありました。やはり区によって状況はさまざまなのだと思いますが、こちらとしては良い方向に向かっているかと思います。</p>
委員	<p>区長会でよく話になるのですが、区民より非区民の方が多くなっています。それには拘らず夏祭りなどには来てもらうようにしているのですが、子どもは来てくれても親御さんには連絡がつかないことが多いです。そこで青空のもとで、バーベキュースタイルでしてみたところ、少しずつですが来てくれるようになりました。少ないですが外国の方も来て来てくれます。慌てなくとも、少しずつ進んでいければと思います。</p> <p>個人的には、まち協で男のクッキングをさせてもらってしまっていて、多くの方に参加していただいています。そういう仕事をしていた縁で声を掛けていただいて、横のつながりができてありがたく思っています。</p>
委員長	<p>縛りをつけて自治会に加入させるのではなく、小さなことからコツコツすること</p>

	<p>を通じて自治会に加入してもらおうという具体的な提言でございました。 それでは次の項目についてお願いします。</p>
事務局	<p>－ 「地域福祉の財源を考える協議の場づくり」について説明 －</p>
委員	<p>総合事業が平成 29 年度から始まり、財政的な支援もあるということですが、総合事業の概略を説明していただけますか。</p>
事務局	<p>－ 総合事業の概略について説明 －</p>
委員	<p>ふくらみのある支援、という内容になるのですか。</p>
事務局	<p>はい。自立に向けた支援ができる形に変わっていくと考えておりますし、そういうプランが実行できるように主体となるケアマネさんの力量を高めていくような動きも考えています。</p>
委員長	<p>既存のデイサービスや訪問介護を中心として、まち協でも取り組んでいくというところも全国的にはありますし、必ずしも事業所だけが取り組むのではなく、地域が支え合うという方向性かと思います。</p>
委員	<p>将来まち協で福祉タクシーをやってはどうかという話が出てくるかもしれませんが、そういったところで多くの事例、メニューがあればいいですね。</p>
委員	<p>総合事業自体が蓋を開けてみなければわからないところがありますが、ボランティアの活用も謳われていますし、今おっしゃられたようにまち協を主体とした有償運送というのもありだと思います。地域のなかで助け合いながら生活をよりよくしていくという主旨が、高齢から障がい、児童までつながっておりますので、やはり地域というキーワードが今後も言われていくだろうと思います。</p> <p>73 ページについてですが、財源をお金と考えるのか、それとも社会資源を含めて考えていくのか、お聞かせください。</p>
事務局	<p>人材、社会資源についても財源の一部であると考えております。</p>
委員長	<p>第二次計画策定時には、直接の財源による支援についてと同時に、例えばラジオ体操を地域で広めていくことで介護を受ける人が少なくなり、結果介護保険が安くなる、という間接的な財源についても議論したように思います。</p>
委員	<p>財源の話となりますと公金や支援金、寄付金など色々な支援の形があるとは思いますが、限度がありますので、常に悩ましい話題です。まち協でコミュニティビジネスを考えてはどうかというお話をよくいただきますが、模擬店をするぐらいが精一杯です。今回新しい計画に変わったときに、そのあたりがどういう形の絵になっていくのかについては興味があります。</p> <p>この委員会では社会福祉課の方が中心となっておりますが、地域福祉、地域防災のことを考えると行政側の取り組みの主体となる担当課からも一人か二人入ってもらってもいいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>8 項目については以上で説明を終えましたが、他の部分につきましても、ご意見等ございましたら、ご意見シートにて 12 月 7 日までにいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>次第の 2 についてはよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>何か所か取り組みの主体の行政の欄が空いているところがありますが、これは決</p>

	めるのが難しいのか、抜けているだけなのか、どちらでしょうか。
事務局	そちらは第二次計画から行政が主体として挙がっていない取り組みになります。そういったものについては担当課が入っておりません。
委員長	私からも一点質問なのですが、住民懇談会のまとめで出していただいた方向性については、計画のなかでこういった形で表れると理解すればよいでしょうか。
事務局	計画の体系で申しますと、現状では基本目標があつてそこに色々な取り組みがぶら下がっている形になっていますが、今回住民懇談会でお話合いしていただいた「誇れるものと大事にしていきたいもの」はそれを横につなぐようなイメージになります。計画書では初めの方に、「湖南省の地域福祉計画では特にこの点を大事にしていきたい」という盛り込み方をして、その後で今ご覧いただいている取り組み全般が続くという形になるかと思いますが、そのことについてもご意見、ご教示いただければと思います。
委員長	例えば今回提案していただいた「いのち」「ふれあい」「支えあい」、他にも「子ども」や「まち協」といったキーワードをどのように表していくかですね。これを次回の委員会でお示しいただけるのでしょうか。
事務局	次回の委員会はその点も盛り込んだうえで開催させていただきたいと思います。
委員長	わかりました。

3. その他

事務局	その他についてですが、次回は12月15日午後2時30分からということをお願いいたします。次回は素案の形でご提案をさせていただきたいと思います。今回のご意見につきましては、12月7日までにご意見シートにてご提出願います。 それでは、第4回目の委員会を終わります。委員長よりあいさつをお願いいたします。
委員長	時間も押しておりますので、今日はどうもありがとうございました。

■問い合わせ先

社会福祉課地域生活支援係〔東庁舎〕

電話 0748-71-2327

ファックス 0748-72-3788